

教育事情報告 「台湾の小学生の生活」

今回は台北日本人学校に通っている子どもたちの様子をお知らせしました。今回は現地の学校に通っている子どもたちの様子をご紹介します。

台湾の学校は日本と同じように小学校6年間、中学校3年間、高校3年間、大学4年間です。新学期は9月から始まり、6月に卒業式を迎えます。

台北日本人学校の近くにある小学校に通う K 君の一日を追って、台湾の子どもたちの生活を見ていきましょう。

K 君は小学校1年生です。家のすぐ前にある学校には8時に登校します。学校の近くに住む子どもでも、隣にある別の小学校に通っている子もいます。K 君の通う T 小学校は公立ですが、名門高校に多く進学する公立中学校の学区にある小学校として人気があり、越境入学をしてくる子どもも多いそうです。そのために定員オーバーとなり、新しく引っ越してきた子どもは隣の学校へ通わなければならないのです。

朝の時間に上級生のお兄さんお姉さんたちは掃除をしています。日本の学校と同じように教室で朝の会をした後、授業が始まります。40分の授業が午前中4時間あります。日本と同じように2時間目が終わったら、25分間の中休みがあり、グラウンドや遊具施設で遊んだりします。K 君は、よく鬼ごっこをして遊びます。

台北市の学校は、1学年10学級以上ある大規模な学校が多いです。大きくて立派な校舎が至る所に建てられていますが、児童数に比べてグラウンドは狭いです。台北市は特に人口密度が高く、住宅のほとんどはマンションです。そのような状況で広いグラウンドを確保することは困難です。

低学年の子どもたちはグラウンドで遊ぶことは禁じられており、校舎のそばにある遊具のところで遊んでいます。学年により遊ぶ場所が分けられているのは、日本の学校でも多くあると思います。体育館もありますが、全校児童が十分に運動するだけのスペースがなく、体育の授業は週1時間と少ないです。

K 君の好きな教科は算数です。家でお父さんがコンピュータを使って仕事をしているせいか、コンピュータにも興味があります。現在、台湾が国として重点を置いていることは、科学技術の発展と国際人の育成です。そのため、かつての日本がそうであったように知識をどんどん教え込むスタイルの授業が多いようです。コンピュータを使った授業や、英語の授業も1年生から始まっています。

ところで、台湾の公用語は中国語ですが、人々の間ではもともと台湾語が話されていました。また、客家語を話す客家人も多くいます。さらに、原住民と呼ばれる少数民族の人々の言葉もいくつかあります。自国の文化や伝統を大切にする目的で、これらの言語についての授業も行われるようになりました。

学校教育に新しく要求されるものがある一方で、漢字の国でありながら書写の時間はカットされるという事態も起きています。また、最近、台湾でも詰め込み式の教育に対する批判から、日本がたどってきたのと同じように、ゆとりの教育を求める声が聞かれるようになってきたそうです。



見学に行った S 小学校では、全教室に液晶プロジェクターが設置してありました。ビデオ編集室もあり、設備・機器はかなり充実しています。

K君の大好きなお弁当の時間になりました。K君の好きなおかずはからあげです。台湾では外食産業が発達しており、至る所にお弁当屋さんや食堂があります。両親共働きの家庭が多く、お弁当屋さんに頼んで学校に配達してもらう家庭も多いです。K君の学校では、給食かお弁当を選ぶことができます。給食と言っても、台北市では民間の業者に委託されており、栄養より子供の好みや利益を追求した献立ではないかと最近新聞に取り上げられて話題になっていました。

お腹がいっぱいになったところで、40分間の昼寝の時間があります。私たち日本人から見ると驚きですが、昼寝は暑い地域によく見られる習慣です。教室の机の上に枕を置き、そこに顔を伏せて静かに寝ます。このとき寝ないで遊んだり、おしゃべりすることは禁じられています。

昼寝の後は3時間授業があります。K君たち低学年は週に1回午後も授業がありますが、週4回は4時間で終わりです。中学年は週2日、高学年は週4日、7時間授業の日があります。ただし毎週水曜日は全校4時間です。この日は先生たちの会議や研修会の日です。大学などで開かれる先生を対象にした研修会なども、この日に設定されているそうです。

K君は学校が終わると家に帰りますが、山ほど宿題が出されて帰ってからも大変です。また、友達と遊びたくても、塾や習い事が忙しい友達が多く、なかなか予定が合いません。この学校の多くの子どもたちは、学校が終わってほっとする間もなく、塾や習い事に向かいます。学校まで塾や習い事の人を迎えに来ていることもあります。受験競争が激しいことからわかるように、親の教育に対する関心は高く、また共働きの家庭も多いことなどから、塾や習い事は大変に盛んです。前回の日本人学校の子どもたちについても塾や習い事が盛んなことはお伝えしましたが、学習塾はもちろんのこと、英語、水泳、テニス、空手、テコンドー、体操、バレエ、ダンス、絵画、ピアノ、バイオリン、書道、そろばんなど実に多くの教室が学校の近くにありまます。また、幼稚園も学童保育を実施し、宿題をさせたり遊ばせたりするだけにとどまらず、最近では特別なプログラムを用意するようにもなりました。そして、学校でもスポーツ少年団や部活動のようにスポーツや芸術活動のクラブが盛んに行われています。これらの塾や習い事が終わって、親を迎えにくる頃は6~7時頃になります。

このように放課後も子どもたちは忙しく、友達と自由に遊ぶ時間がなかなかとれないことが子どもたちの悩みようです。

夕食や宿題の終わった後は、台湾の子どもたちにとっても大好きなテレビの時間です。K君も好きな番組はやはりアニメです。名探偵コナンやポケモンは映画も上映され、こちらでも大人気です。ポケモンの遊園地も先日オープンしました。その他にも多くの日本のアニメが放映され、マンガも出版されています。どれも、みな人気があります。日本と同じくゲーム機にも人気があります。ムシキングなど日本で流行ったものはすぐに台湾にもやってきます。また、K君はお父さんのコーチで野球をはじめ、最近では野球中継をよく観るようになりました。台湾でも野球は人気があります。また、台湾はアメリカ文化の影響を強く受けており、バスケットボールも大変人気があります。特に若い人にバスケットボールは人気があります。公園にはバスケットコートがあり、休日には多くの中高生でにぎわっています。

子どもたちは中国の伝統文化の素地の上に、アメリカや日本の文化の影響を強く受けながら育っていきます。